

01 多摩地域都市農業振興協議会



多摩地域で都市農業に関わるコミュニティ形成！



農業体験会・農業研修の様子



人形町マルシェの様子



オンラインセミナーの様子

都市農業地域共生推進等支援事業

地域支援型

農業体験会の開催



東京都 八王子市



事業の背景

一般社団法人畑会の活動の中心となっている磯沼ミルクファームは、八王子市小此企町に位置し、京王線山田駅や県道506号線など、各方面からアクセスしやすい地域にある。

<現状>

東京都の農業生産額が低下する中、八王子市は多種多様な農産物を生産しており、都市住民のニーズも高い。

<課題>

東京産野菜の認知度が低く、都市住民と生産者との交流の場が不足している。個々の生産者のロット数が小さく、安定供給体制が構築されていない。

取組概要

◆取組内容・効果

- ・人形町などの都心エリアでマルシェを計12回開催、八王子市内で農業体験会を計5回実施し、都市農業や食育に関する理解醸成と都市農業のファン獲得につながった。
- ・コロナウイルス対策としてオンラインセミナーを2回開催し、今まで東京農業をあまり知らなかった層に向けて都市農業の魅力を発信できた。
- ・研修事業についてHPやネット広告で情報発信を行ったところ、計20名の研修生の申込みがあり、農業に関わる人材を増やすことができた。
- ・積極的な情報発信やチラシ配布等を継続して行ったところ、体験農園の利用者が年間で10名ほど増加。農家の経営支援につなげることができた。

02 一般社団法人 KOBE FARMERS MARKET



神戸市で若い世代を取り入れたマルシェを開催！

都市農業地域共生推進等支援事業

地域支援型

マルシェ等の開催



兵庫県 神戸市



マルシェ開催の様子

事業の背景

<現状>

- ・神戸市の面積の約6割は市街化調整区域であり、そのうち農地は1/6を占めている。
- ・農業産出額は、100万人を超える政令指都市の中で最も多い。

<課題>

- ・近年、高齢化等により農家人口は減少の一途をたどっており、若い世代に農業への関心を高めていくことが不可欠。
- ・自然豊かな街のメリットを活かすため、都市農業者と都市住民との間のつながりを作っていくことが課題となっている。

取組概要

◆実施体制

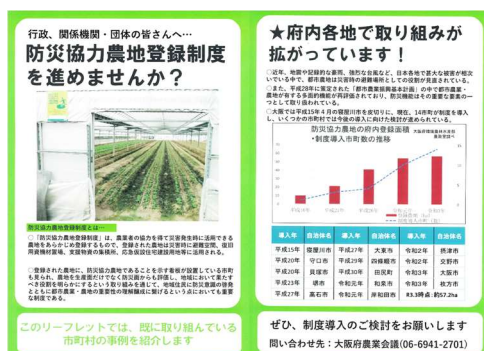
自治体や地元農業者らとの連携に加え、新しく若手運営メンバーや学生ボランティアを充実させ、運営体制を強化した。

◆取組内容・効果

- ・神戸の中心地三宮で毎週土曜日に定期開催するファーマーズマーケットに加えて、合計5エリアの地域フェアを開催。
- ・一般開催時のファーマーズマーケットに比べ、地域フェア開催時は1.2倍～1.5倍の売上となり、来場者が、2割～3割増加した。
- ・新たな地域フェアを漁港などの場所で開催することにより、新しいファンを獲得することができた。また、農家の新規出店等もあり、新規客を呼び込み通年での全体来場者を押し上げる効果も出ている。

03 一般社団法人 大阪府農業会議

大阪府で防災協力農地の拡大と住民に理解を促進！



防災協力農地登録制度のリーフレット



対面での聞き取り調査の様子

都市農業地域共生推進等支援事業

地域支援型

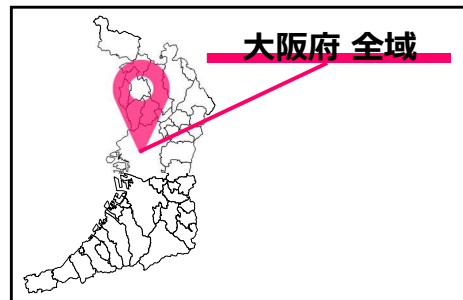
防災協力農地の導入



導入事例を誌面にて掲載



寝屋川市防災協力農地の様子



事業の背景

<現状>

府内農地面積は1万2,823ha（2018年）。市街化区域内農地は3,335haで、そのうち生産緑地は1,927haとなっている。

＜課題＞

- ・府内43市町村のうち、防災協力農地に取り組むのは12市町と3割程度にとどまっている（2019年）。
- ・大阪府内農地は防災空間等の多様な機能を有しているにもかかわらず、府民に十分に認知されていない。
- ・既に同制度を導入した地域においても、防災協力農地の登録が進まないケースが散見している。

取組概要

◆ 实施体制

府内の市町村、農業委員会、JA等の農業関係団体とのネットワークを生かした体制により、防災協力農地の推進及び府民への都市農地の防災機能の理解醸成に取り組む。

◆取組内容・効果

- ・府内で防災協力農地制度についてヒアリングを行い、先進的に取り組んでいる6市の導入の経過や制度の概要、課題などを取りまとめた資料を作成。
- ・防災協力農地の受益を受ける地域住民を対象に、都市農地における防災機能について情報提供を行うとともに、対面での聞き取り調査を実施。

04 小田急電鉄 株式会社

座間市で地域循環モデルを目指す！



フードサイクルプロジェクトのスキーム

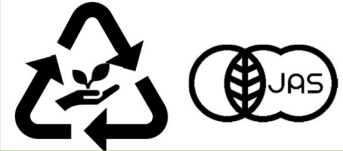


LFCコンポストバッグ

都市農業地域共生推進等支援事業

モデル支援型

有機農業等の普及



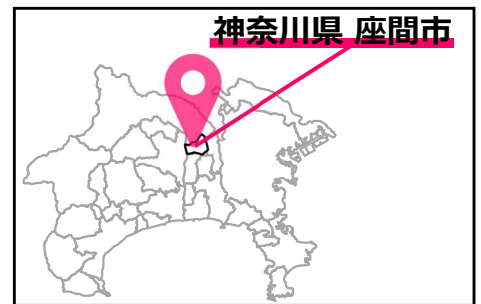
参加者の中間交流会の様子



各世帯から集めた堆肥の管理の様子



協力農家の圃場にて施肥の様子



神奈川県 座間市

事業の背景

座間市は神奈川県のほぼ中央に位置し、市域は17.57km²人口約13万人の市である。市街化調整区域のほぼすべてが農業振興地域であり、農地面積は田が88ha、畑が126haの計214 haである。

<現状>

小田急電鉄と座間市では、令和元年からごみ収集運搬の最適化システム「WOOMS」の実証実験を開始。収集運搬の効率化によって生まれた余力により剪定枝のリサイクルに取り組み、年間約1,400トン（2021年度）の廃棄物の削減に繋がった。<課題>

ゴミの削減・資源循環に対する住民理解の増進と有機農業の推進

取組概要

◆取組内容・効果

- ・座間市内の600世帯へ生ごみを手軽に堆肥化する「LFCコンポスト」を無償貸与し、各家庭から排出される焼却ごみを削減。
- ・各家庭からごみ集積所へ出していただく「出来上がり堆肥」を、座間市の資源回収車で効率的に回収する。
- ・回収した堆肥を、第三者機関で品質調査したうえで、市内の農家で農作物の栽培に利用し、できた農作物を市民に販売する。
- ・焼却ごみの削減と、都市農業の振興による循環モデルを形成する。
- ・2024年3月末までに計600世帯から出る約20トンの生ごみを削減し、約2トンのコンポストとして再生する計画。

05 株式会社 エマリコくにたち



有機農業の担い手と都市農業を支える都市住民の育成を目指す！



みどり戦略TOKYO農業サロンの様子



イートローカル探検隊の様子



食育BOX「農くる！」(野菜の解説・野菜の生産者・レシピ)



マルシェの様子

都市農業地域共生推進等支援事業

モデル支援型

農村ファンの拡大



東京都 多摩エリア



事業の背景

<現状>

- ・多摩地域では、生産緑地をはじめとした都市農地が比較的残されている。
- ・行政や農業者は、都市農地維持に対する危機感が強い。
- ・また、多摩地域は地産地消が盛んで、地域住民の都市農業の認知度が高いため、高齢者を中心とした援農ボランティアも多い。

<課題>

- ・みどりの食料システム戦略で有機農業の拡大がうたわれているが、農業者は日々の農業経営に追われ、持続可能な農業や有機農業について、学習する時間がない。
- ・農業者は「東京都GAP」などの認証を取得しているが、農産物の販売価格に転嫁できていない。

取組概要

◆実施体制

多摩地域の農産物の流通・販売を行う「(株)エマリコくにたち」と青壮年農業者、農業体験活動を行うNPO等が連携して事業を実施。

◆取組内容・効果

①みどり戦略TOKYO農業サロン

循環型農業、有機農業等に関心のある農業者が先輩農業者の圃場で実習しながら、技術を学ぶ。

②イートローカル探検隊・マルシェの開催

座学講習や名人農家での援農を通じて、食に関心のある都市住民を都市農家の「中間支援層」として育成し、マルシェのボランティアにも参加。

③子ども向け食育BOXの販売・送付

食育宅配BOX「農くる！」は、親子で楽しみながら地元の農業や野菜について学べることを目的に開発し、小さな子どもがいる家庭に宅配便にて送付。

06 農と親しみ江東区の共生社会を考える協議会



豊洲エリアで子どもたちが農に触れあう空間を創設！



農園設置場所となる東京ガス「がすてなーに」の様子

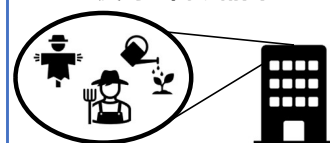


廃材を活用したレイズドベッド10台を設置

都市農業地域共生推進等支援事業

都市農地創設支援型

農的空間の創出



「ハコ畑」のロゴ



コミュニティによる種植え・苗植えの様子



イベントでのワークショップの様子

東京都 江東区



事業の背景

<現状>

近年、豊洲地区を中心に開発がすすみ、高層マンションが林立する都市景観となる一方で、江東区では「みどりの中の都市」をイメージした「CITY IN THE GREEN (CIG)」によるみどりのまちづくりをすすめている。

<課題>

- ・区民農園が不足しており、サポート付きの民間運営農園は高額である。
- ・区内には身近な農地がなく、農に触れる機会が限定的である。
- ・農への関心づくりや組織体制が十分でない。

取組概要

◆実施体制

江東区民による地域協議会が主体となり、すでに都市空間における農地創出等の先例事例を持つ専門家や団体に加え、地域のコミュニティを持つ団体や、農業従事者等と協力する。

◆取組内容・効果

- ・農的空間の創出に関する勉強会や関係者との合意形成を目的とする話し合いの場等を設置する。
- ・マルシェやイベント出店を通して都市住民の農業への関心やニーズを把握するための調査を行う。
- ・子育て世代を中心に取組の核となる区民サポーターを募集し、コミュニティの体制強化を図る。
- ・都市住民や子どもが農に触れる農園「ハコ畑」を設置し、農園の形態や管理の仕組み等について実証を行う。